

## ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元： インターテックリサーチ株式会社

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	添付：「東電スマートメーター通信機能基本仕様に対するコメント」の5ページ参照	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>論点：機能を限定したスマートメーターの拙速な導入は、無駄遣い以外の何物でもない。</p> <p>提言：一般家庭への中途半端な機能のスマートメーター早期導入は控えるべきである。</p> <p style="padding-left: 2em;">当面のピーク電力需要削減対策なら、業務用電力需要家への対応でよいのではないか。</p> <p>&lt;理由&gt;</p> <p>添付：「東電スマートメーター通信機能基本仕様に対するコメント」参照</p>	<p>今回のRFCにより幅広く頂いたご意見をもとに、遠隔検針、遠隔開閉機能に加えて、デマンドレスポンスや検針データの活用等ユースケースの拡張性について整理を行います。その上で、RFPを実施し仕様を確定していきたいと考えております。</p> <p>なお、スマートメーターの普及により負荷平準化による設備投資の抑制や業務効率化による費用削減効果が見込まれることから、経営の合理化に資する方策としても、早期導入が望ましいと考えています。また、早期導入により、政府目標(5年間で総需要の8割をカバー)の達成を目指しています。</p>
2	5 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>○コメント対象記述</p> <p>お客さま約 2,700 万軒をカバー</p> <p>○コメント</p> <p>まず、ユニバーサルサービスという前提を捨てたらどうか。</p> <p>山間地など、通信インフラを含めた1軒当たりのスマートメーター導入コストの高くつくエリアにスマートメーターを導入する必要はない。</p>	<p>地域特性なども考慮したうえで、具体的な費用対効果の試算を的確に実施し、適用する通信方式などについて検討させていただきます。</p> <p>なお、山間地など、一般に1軒当たりの導入コストが高いとされる地域においては、人手による検針コストも高く、</p>

		<p>東電管内一律に同じスマートメーターを導入するのが、ユニバーサルサービスとして当然と考えるかもしれないが、都会と山間地ではメーターとセンターとのデータ授受に必要な通信インフラの投資額は異なり、山間地の方が高つく。</p> <p>それなら、山間地など通信インフラ設置費用が嵩みそうなエリアには、スマートメーターの代わりに、都会と同じ時間帯別料金が適用されるプリペイドカード方式の(通信機能のない)メーターを入れればどうか？ これなら、検針員が計測しに行く手間がなく通信費用としてのランニングコストもかからず、かつ、時間帯別料金による価格インセンティブに基づいたピーク需要削減効果も期待できる。</p>	<p>導入効果は大きいと考えています。</p> <p>また、現時点ではプリペイド方式導入の具体的なメリットが認められていないため導入を考えていませんが、今後の検討課題とさせていただきます。</p>
3	6 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>○コメント対象記述</p> <p>①一軒あたりの情報量は少ない</p> <p>④今後の普及の見込みや利用継続性を考慮して長期にわたって利用できる通信方式を選定</p> <p>○コメント</p> <p>①これはリアルタイム価格ベースの DR を将来的にも行わない前提にたった場合の話。</p> <p>④で言及しているように今後のことを考えるならば、リアルタイム価格ベースの DR や、OpenADR2.0 で目指されている DR によるシステムの周波数調整などのアンシラリーサービスまでも視野に入れてデータ通信量の拡大を想定しておくべきである。</p>	<p>これまでも料金メニューによるデマンドレスポンスについて検討して参りましたが、今後は、社外のアドバイザーの活用も視野に入れ、ユースケースの集中的な検討を実施する予定です。横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)実証事業、スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会等の国レベルでの検討に積極的に参画し、他社との業務提携などの新たな視点からの検討も加え、最大限ピーク需要を抑制し、供給設備に係る設備投資の削減を追求してまいります。</p> <p>なお、スマートメーター用通信ネットワークを利用したデマンドレスポンス信号の伝送について、現時点で正確に見通すことは困難ですが、「スマートメーター制度検討会報告書」(平成23年2月)に記載されている、PCSのカレン</p>

			<p>ダー情報の書き換え、需要家の発電機器・消費機器のリアルタイム制御を実現するための料金情報等といった通信が将来的に実現できるよう伝送容量を確保することとします。</p>
4	7 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;  ○コメント対象記述  30分検針値収集  ○コメント  電力料金計算を行うためにはそれで十分かもしれないが、PPS や消費者に代わってエネルギーマネジメントを行うには第3者企業には不十分。最低5分間隔の検針値のリアルタイム収集が望ましい。</p>	<p>Aルートにおける検針値の伝送頻度については30分毎を基本とします。ただし、諸外国においては数時間毎～数日毎の伝送が主流となっていることから、今後のRFPを通じたコスト評価の結果等を勘案し、伝送頻度の変更機能を備えることを前提に、コスト抑制のために伝送頻度を下げること検討します。</p> <p>また、検針粒度については、スマートメーター制度検討会での検討結果などを踏まえ、30分値が適切であると考えます。</p>
5	9 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;  ○コメント対象記述  ハンディターミナル通信  ○コメント  通信ネットワークを介して通信できない場合検針員が出向いて直接検針することが想定されているが、プリペイド方式のメーターを設置すれば、検針員は不要となる。季節別・時間帯別料金テーブルをソフトウェア的に設定可能なプリペイドメーターにすれば、経済的なインセンティブを利用したピーク需要削減効果としてはスマートメーターと変わらない、かつ、通信イン</p>	<p>現時点ではプリペイド方式導入の具体的なメリットが認められていないため導入を考えていませんが、今後の検討課題とさせていただきます。</p>

		<p>フラや検針員といったランニングコストの不要な解決策となる。</p> <p>No.1 参照</p>	
6	10 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>○コメント対象記述</p> <p>HEMS との情報連携に関してスマートハウス標準化検討会の標準仕様に準拠</p> <p>○コメント</p> <p>IP 準拠を電力会社として認めたことは評価に値するが、データとして渡されるのが 30 分積算値では HEMS 側としてほとんど利用価値がない。こちらも最低 5 分間隔の積算値が望ましい。</p>	<p>スマートメーターと HEMS との情報連携(B ルート)については、「スマートハウス標準化検討会中間取りまとめ」(平成 24 年 2 月 24 日)の結果にしたがって、IP および ECHONET-Lite を実装することとし、提供する電力量は 30 分毎の積算値を適用します。また、将来的な検針積算値の粒度や頻度については、いただいたご意見も参考にしながら、当社も参画する「スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会(事務局:経済産業省)」等において提言を行うとともに、当該検討会等での議論を踏まえて仕様を策定し、実装することとします。</p>
7	14 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>○コメント対象記述</p> <p>約 2700 万軒をカバーする通信ネットワーク</p> <p>○コメント</p> <p>No.2 参照</p>	<p>地域特性なども考慮したうえで、具体的な費用対効果の試算を的確に実施し、適用する通信方式などについて検討させていただきます。</p> <p>なお、山間地など、一般に1軒当たりの導入コストが高いとされる地域においては、人手による検針コストも高く、導入効果は大きいと考えています。</p> <p>また、現時点ではプリペイド方式導入の具体的なメリットが認められていな</p>

			いたため導入を考えていませんが、今後の検討課題とさせていただきます。
8	16 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>○コメント対象記述 高出力無線を1:N 無線方式</p> <p>○コメント FM 放送の空き帯域を利用すれば、通信インフラに関するハードウェア的な追加投資なしにピーク需要抑制信号の配信が可能となる。 当面のピーク需要対策として、中途半端な機能のスマートメーターを拙速に一般家庭全戸に導入・設置するより、当面はピーク需要削減に協力できるすべての大口ユーザに FM 放送によるピーク需要削減信号に反応する装置を付ければよいのではないかと。</p>	<p>需要抑制方策については、横浜スマートシティプロジェクト(YSCP)実証事業、スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会等、国レベルでの検討を踏まえ、弊社としても実現性・経済性を念頭に、通信仕様に関わる技術検討についても積極的に参画し、実現に向けて取り組みます。 なお、頂いたご意見については今後の参考とさせていただきます。</p>
9	19～30 ページ	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>○コメント対象記述 現時点で東電が検討している無線マルチホップネットワークシステム</p> <p>○コメント 通信方式も含め現状で実装可能なレベル考えられている現仕様に関しては個々にコメントしない。</p> <p>1)まず、実現可能であることを優先して、現時点でスマートメーターの機能範囲をきわめて中途半端に決めてしまうことに反対する</p> <p>2)当面のピーク需要削減対策と、あるべきスマートメーターの仕様の検討をリンクさせるべきではない</p> <p>3)スマートメーターの通信インフラを東電の通信設備に限定して、前提とすべきではない</p> <p>4)量産によるコスト削減効果を期待するなら、日本の独自仕様の考えを捨て、例えば SEP2.0 対応の ANCI 仕様のスマートメーター採用も検討すべきである</p>	<p>1)2)今回のRFCにより幅広く頂いたご意見をもとに、遠隔検針、遠隔開閉機能に加えて、デマンドレスポンスや検針データの活用等ユースケースの拡張性について整理を行います。その上で、RFPを実施し仕様を確定していきたいと考えております。</p> <p>3)通信ネットワークの構築については、求められる機能・要件を十分に吟味した上で、通信事業者の既存インフラやサービスの利用も含め、極力低コストで実現することを目指します。 具体的には、今後、通信事業者に対して具体的な条件を提示した上での RFP を行い、要件を満足する提案を比</p>

			<p>較検討し、トータルコストが最小となるよう、適材適所で適用する通信方式を選定します。</p> <p>4)いただいた標準規格への準拠に関するご意見については今後の通信方式選定時の参考にさせていただきます。通信方式の選定においては、コスト、技術の優位性、今後の普及や長期利用の見込み等の見極めが重要となるため、確立された標準規格の採用を原則として、今後、RFP と技術実証により詳細に評価する予定です。</p>
--	--	--	---